

明和コンクリートカッタ

MCP-140
MCP-160
MCP-180(E)

取扱説明書

エンジンは別冊

注意

本取扱説明書を読み、内容を理解してから
当製品を運転・点検・整備してください。



株式会社 明和製作所

目次

はじめに	1
安全第一	1
安全に作業をするために	2
安全注意シンボル	
安全指示順守	
安全な服装、運転の心得	
火災の防止	
排気ガスに注意	
燃料、潤滑油の取扱いを安全に	
やけどの防止	
作業中の注意	
傾斜地での注意	
運搬、保管の注意	
安全表示ラベルと貼付け位置	5
安全表示ラベルの手入れ	
仕様	6
各装置の名称、位置	7
1. 運転を始める前に	8
1-1. 作業前の各部の点検	
1-2. エンジンオイルの点検	
1-3. 燃料の補給	
1-4. エアクリーナの点検	
1-5. Vベルトの点検	
1-6. 散水装置の点検	
1-7. ブレードの取付	
1-8. 機体の昇降	
1-9. ハンドル	
1-10. 機体の走行	
2. 本機の運転及びエンジンの始動	10
2-1. エンジンの始動(リコイル始動)	
2-2. エンジンの始動(セル始動)(MCP180Eの場合)	
2-3. 本機の運転	
3. 停止	13
3-1. 本機、エンジンの停止	
運搬と保管	14
1. 作業中の保管	
2. 積込み、積降しの注意	
3. 運搬、輸送時の注意	
4. 格納	
本機及びエンジンの保守、点検	15
作業前の点検	
定期点検	
ボルト、ナット等の点検	
Vベルトの点検	
ブレード、カバー及び取付けの点検	
グリスの補給	
バッテリーの点検	
こんな時は(トラブルシューティング)	16

はじめに

このたびは当社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、コンクリートカッタを対象に作成したものです。

この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。

ご使用になる前に必ず本書をお読みになり使用方法を理解してください。


(誤った使用方法は、事故・けがの原因となります)


エンジンの取扱説明書も必ず読んで理解の上使用してください。また、お読みになった後

必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取出してお読みください。

なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。


安全 第一


本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。


なお、 表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

 **危険** : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** : 注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示します。

この取扱説明書に書かれている安全に関する注意事項は、あらゆる環境下における運転・点検・整備作業のすべての危険を予知することはできません。

そのため、取扱説明書や機械に貼ってある注意ラベルの警告は、安全のすべてを書いたものではありません。

もし、本書に書かれていない運転・点検・整備作業をする場合の安全に対する必要な配慮は、すべて自分の責任でお考えください。

安全に作業するために

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全注意シンボル

このシンボルは「安全注意」を示します。
機械の注意銘板あるいはこの取扱説明書で、
このシンボルを見た場合、安全に注意してください。
そして、記載内容に沿って予防処置を講じ、
「安全運転・正しい管理」を行ってください。



安全指示順守

- この「取扱説明書」をよく読み、理解してください。
 - ・安全注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
 - ・破損または紛失した場合、直ちに発注のうえ再度貼付けてください。
 - ・正しい運転、作業方法をよく覚えてください。
 - ・機械は常に正常な状態に管理してください。
 - ・機械を勝手に改造しないでください。安全性を損なったり、機能や寿命低下の原因となります。
 - ・「安全に作業するために」の章は基本的な安全順守事項を示したものです。
 - ・本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- 機械を他人に貸したり、使わせる場合は、取扱い方法をよく説明し、また、あらかじめこの「取扱説明書」を読むように指導してください。



安全な服装・運転の心得

- 作業をする際は、作業に合った服を着用のうえ、作業に適した安全防護具を用いてください。
- 操作レバーや他の突起物に誤ってひっかかるおそれがあるものは、着用しないでください。
- 過労や睡眠不足などで体調が悪いときや、飲酒時、薬物服用時の運転はしないでください。
- 運転中は安全を維持するために、ラジオあるいはミュージックヘッドホーンを使用しないでください。



火災の防止

- 燃料、潤滑油のもれは、火災を起こすおそれがあります。
不具合があれば修理の上、油よごれを拭取ってください。
- エンジンのまわりに木片、枯れ葉、紙くずなどの可燃物が蓄積していると火災の原因となりますので常に除去してください。



排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは、人体に有害な一酸化炭素などの成分を含んでいます。

- ・換気の悪い場所ではエンジンを運転しないでください。
- ・運転中は運転者はもちろん、まわりの人も排気ガスに十分注意してください。



燃料、潤滑油の取扱いを安全に —火気厳禁—

■燃料は非常に燃えやすく危険です。
取扱いには注意してください。

- 燃料や潤滑油の補給はエンジンを停止してから行ってください。
- 喫煙しながら、あるいは、火気や火花の近くでの給油作業は絶対にしないでください。
- 燃料補給は風通しのよい屋外で行ってください。
- こぼれた燃料や潤滑油が高温部で着火する可能性があるため、エンジンが冷えてから補給してください。
- こぼれた燃料や潤滑油はいつもきれいに清掃してください。
- 火災を起こさないために、エンジンに堆積した汚れや、油性物、ゴミをいつもきれいに拭取っておいてください。
- 燃料など燃えやすい油脂類は、火気から離して貯蔵してください。



やけどの防止

- エンジン運転中および停止直後はマフラやマフラカバー、エンジン本体およびエンジンオイルが熱くなっています。手や肌が触れるとやけどの危険があります。
- 運転後はエンジンが十分に冷えてから（停止後30分以上）補給、点検、整備等の作業をしてください。



作業中の注意

- 機械を始動するときは周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- 常に足場に注意し機械のバランスが保たれる無理のない安定した姿勢で作業をしてください。
- エンジン始動と同時にブレードが回転しますので、ブレード周辺に充分気を付けてエンジン始動を行ってください。
- 回転部には手や、服等を巻き込まれないように充分注意して下さい。
- 運転中、運転直後は、エンジン本体、マフラーは、熱くなりますので注意してください。
- 運転中に機械の調子が悪くなったり、異常に気付いた時は直ちに作業を中止してください。
- 機械から離れる場合は、平らで安定した地面でエンジンを停止し車輪止めをしてください。機械を移動するときもエンジンを停止してください。

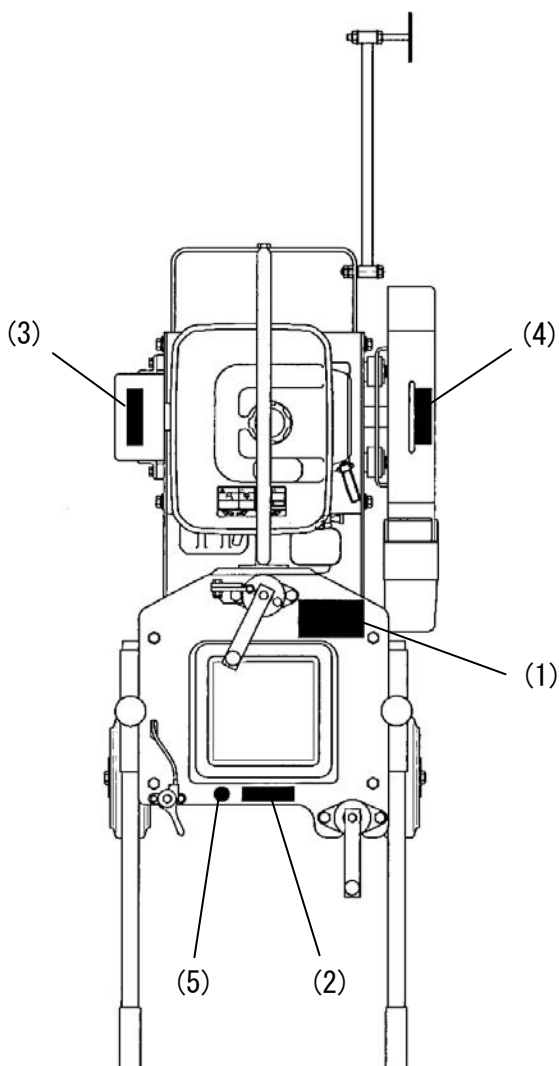
傾斜地での注意

- 傾斜地で機械を放置しないでください。
- 傾斜地で使用する際は、ハンドルを固定するノブボルトがきちんと締めつけてあるか確認してください。
- 傾斜地では、ハンドルをしつかり握り、手を離さないでください。手を離すと機械が自走し重大な事故を引き起こす危険があります。

運搬、保管の注意

- 運搬時は必ずエンジンを停止させてください。
- エンジンがよく冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 本機が水平な場所に置いた姿勢で運搬してください。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようにしっかりと固定してください。
- クレーンによる積み降ろし作業は、クレーンの運転と玉掛け作業の両資格が必要です。
- 吊り上げ、運搬時はエンジンを停止してください。
- 吊り上げ作業の場合、本機部品の損傷やネジの緩み、脱落が無く安全であることを確認してください。（特にフック、と取付ネジ）
- 強度の十分なワイヤロープ等を使用し真直ぐに衝撃をかけないように上げ下げしてください。
- 吊り上げた機械の下には絶対に人や動物等を入れないでください。
- 保管する場合は、水平な場所に立てて転倒しないよう十分注意してください。

安全表示ラベルと貼付け位置



(1) 1002282

	警 告
<p>使用上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブレードの取付時には必ずエンジンを停止すること。 • ブレードの締付けは十分にしっかり締付けること。 • 溝切り以外の作業には使用しないこと。 • 極端な凹凸の路面や左右急傾斜での作業は絶対にしないこと。 • 作業中に異常音、異常振動が生じた時は直ちに作業を中止し原因の確認をすること。 • ジグザグ切り、曲線切り、コジリ、側面使用は絶対しないこと。 	
<small>1002282</small>	

(2) 1002286

	警 告
<ul style="list-style-type: none"> • 取扱説明書をよく読み十分理解するまで機械を運転してはいけません。 • 誤った運転をするとケガや死亡事故につながる恐れがあります。 	
<small>1002286</small>	

(3) 1002287

	警 告
<p>回転部に接触するとケガをします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プーリーやベルト等の回転部に手足を近づけないこと。 • ベルトカバーを外して運転しないこと。 	
<small>1002287</small>	

(4) 1002281

	警 告
<p>大ケガの危険があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブレードカバーは正しく取付けて運転すること。 • 回転中のブレードに絶対に手や身体で触れないこと。 	
<small>1002281</small>	

(5) 1002284



安全表示ラベルの手入れ

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- ラベルが貼付けられている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

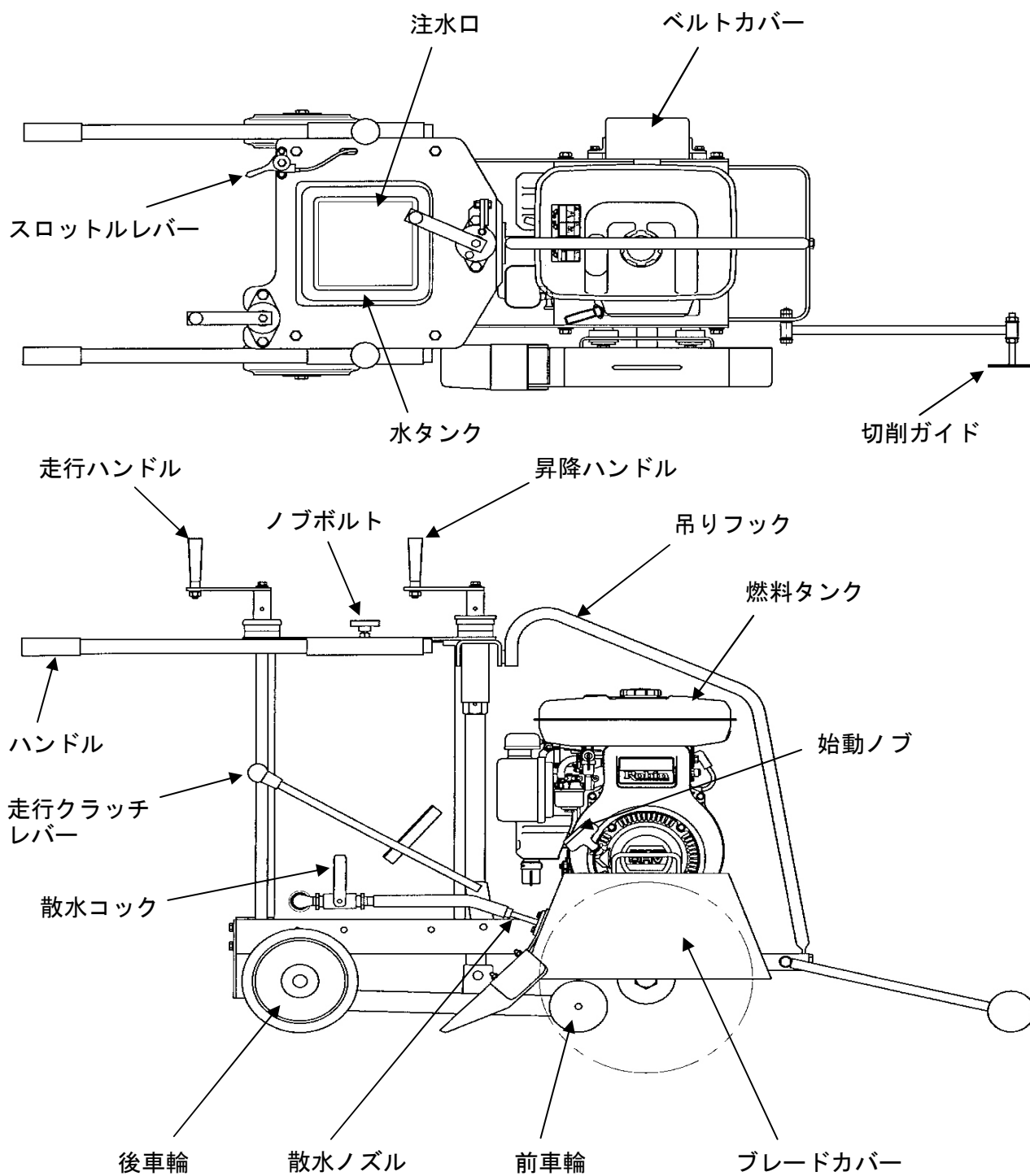
仕 様

型 式		MCP-140	MCP-160	MCP-180[E]
本 体 仕 様	機械質量 (kg)	123	138	138[152]
	全長 (mm)	1740		
	全幅 (mm)	540		
	全高 (mm)	955	1005	
	伝動装置	2本Vベルト	3本Vベルト	
	使用Vベルト	3V-300		
性 能	使用ブレード (inch)	10~14	10~16	10~18
	最大切断深さ (mm)	70~125	70~150	70~175
	深度調節方式	スクリュー式		
	切断走行方式	半自走式		
	冷却方式	重力注水式		
	水タンク容量 (L)	45		
エ ン ジ ン 仕 様	名称	ロビンEH25-2D	ロビンEH30D	ロビンEH34D [EH34DS]
	形式	空冷4サイクルOHVガソリンエンジン		
	総排気量 (cc)	251	291	338
	最大出力 (kw/rpm)	5.9/3600	6.6/3600	8.1/3600
	最大トルク (N·m/rpm)	16.6/2600	19.1/2500	23.6/2500
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン		
	燃料タンク容量 (L)	約 6		
	使用潤滑油	エンジンオイル 10W-30 (SE級以上)		
	潤滑油量 (L)	約 1.0	約 1.2	
	点火プラグ	NGK B6HS	NGK B6ES	
	始動方式	リコイル式		リコイル式 [セル付]
	低速セット回転数 (rpm)	1400~1600		
	高速セット回転数 (rpm)	3700~3900		

本仕様は、予告なく変更することがあります。

機械質量は、燃料タンク容量の1/2の燃料を含んだ値です。

各装置の名称、位置



1. 運転を始める前に

1-1. 作業前の各部の点検

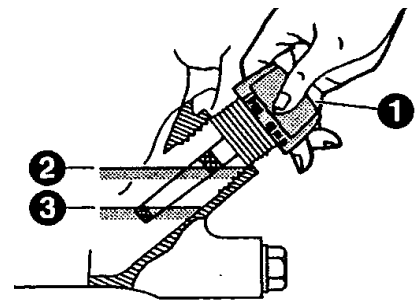


- ※エンジン運転中に点検をしないでください。大変危険です。
点検は必ずエンジンを止めてから行ってください。
運転前には、必ず各部の点検を行ってください。
異常があった場合は部品交換、増し締め等の処置を実施してください。

外観	傷、ゆがみ、汚れ
吊りフック	傷、変形、亀裂、破損
ブレード	傷、変形、亀裂、破損
昇降装置	変形、破損、給脂
水タンク、ホース	漏れ、損傷、亀裂、破損
燃料タンク、燃料ホース	漏れ、損傷、亀裂、破損
エンジンオイル	漏れ、汚れ、油量
エアクリーナ	汚れ、変形、破損
ボルト、ナット類	緩み、脱落
Vベルト	傷、変形、亀裂、破損

1-2. エンジンオイルの点検

- ・機械を平らな地面に置きエンジンを水平の状態で見つけてください。
 - ・オイルの点検は給油栓①をねじ込まないで行ってください。
 - ・最低油面③以下の場合は、注油口からオイルゲージで上のきざみ線の最高油面②までオイルを入れてください。
 - ・オイルがこぼれたときはきれいに拭きとってください。
 - ・点検後は給油栓①を確実に締付けてください。
- ※その他エンジンの取扱には、別紙エンジン取扱説明書をお読みください。



※オイルの種類、オイル量は、仕様の仕様書欄に記載されております。

1-3. 燃料の補給



- ※燃料補給時は火気厳禁
- ・燃料を補給するときは、必ずエンジンを止めて行ってください。
- ・燃料は自動車用普通ガソリンをお使いください。
- ・燃料注入時には、注入口に装着してある燃料コシ網で燃料をろ過しながら補給してください。
- ・燃料は口元一杯まで入れないでフィルタの底面までにしてください。
- ・燃料をこぼしたときは、きれいに拭き取ってください。

1-4. エアクリーナの点検

- ・エアクリーナを点検しエレメントが汚れているときは清掃してください。
- ※詳しくは、別紙エンジン取扱説明書をお読みください。

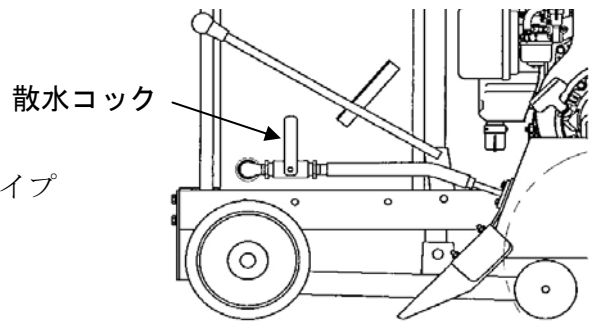
1-5. Vベルトの点検

- ベルトカバーを外しベルトの張り具合や、亀裂、磨耗がないか点検し、損傷があれば新品のベルトに交換してください。
- ベルトの張り具合はプーリ間の中心を強く指で押して4～5mm位たわむように張ってあれば正常です。張りが不足している場合は、張り直してください。
- ベルトの交換の際は、全て同時に交換してください。

※ベルトサイズは、仕様の仕様書欄に記載されております。

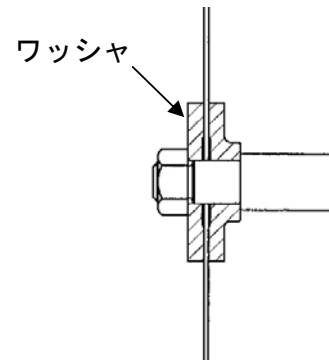
1-6. 散水装置の点検

- 水タンクに水を入れ散水コックを開き、散水パイプが詰まっていないか確認してください。



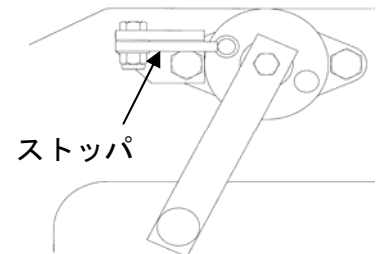
1-7. ブレードの取付

- ブレードに曲がり、ひび割れ、欠け傷、異常変形等が無い点検してください。
- ブレードを取付けるシャフト、フランジ、締付けナットに異常が無い点検してください。
- ブレードカバーが異常なく正しく取付けられているか、点検してください。
- ブレードの回転方向、ワシヤの取付け向きが正しく取付けられているか、点検してください。



1-8. 機体の昇降

- ストップを外し、機体を下げる時（切込み）は、昇降ハンドルを右（時計方向）に回します。機体を上げる時は、昇降ハンドルを左（反時計方向）に回します。

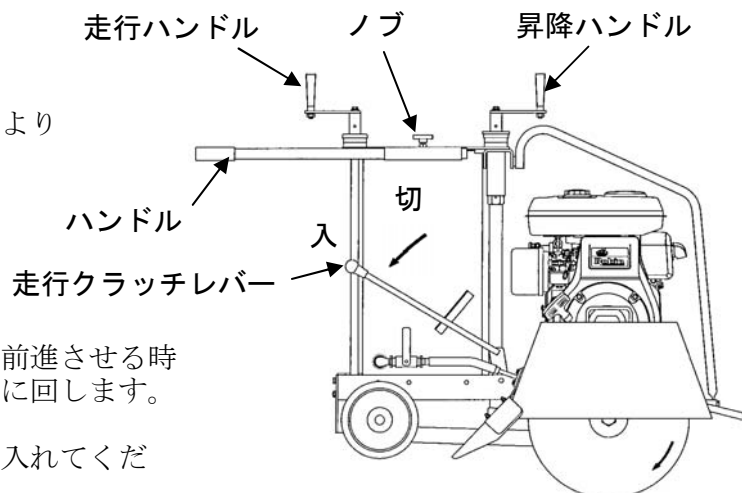


1-9. ハンドル

- ハンドルの取付けは、ノブボルトにより出し入れが、調節ができます。

1-10. 機体の走行

- 走行クラッチレバーを入れ、機体を前進させる時は、走行ハンドルを右（時計方向）に回します。左へ回すと後進します。
- 作業前には、走行クラッチレバーを入れてください。



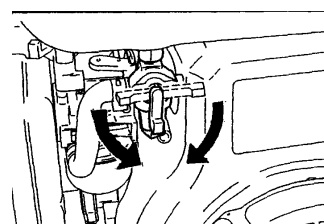
2. 本機の運転及びエンジンの始動

▲ 注意

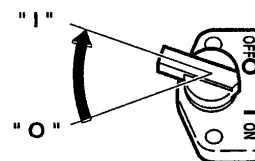
- ・エンジン始動は周囲の安全を確かめてから始動してください。
- ・閉め切った屋内では、エンジンの始動・運転をしないでください。排気ガスで空気が汚れ、ガス中毒をおこす危険があります。
- ・エンジン運転中は、幼児や家畜などを機械のそばに近づけないでください。
- ・エンジン運転中は、回転部に触れないよう十分注意してください。
- ・酒気帯びでは運転しないでください。
- ・安全運転のため、作業に合った服を着用してください。
- ・ブレードが正しく取付けられているか確認してください。
- ・ブレードカバーが正しく取付けられているか確認してください。

2-1. エンジンの始動(リコイル始動)

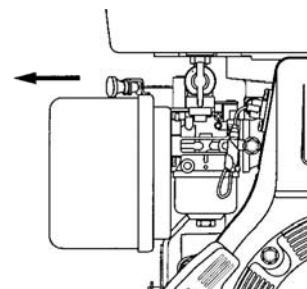
1. 燃料コックを開きます。



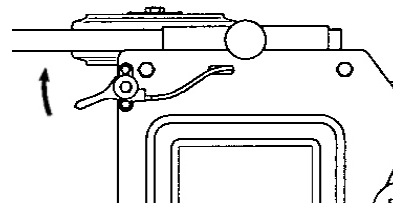
2. エンジンのストップスイッチを“|” (ON) 側に回します。



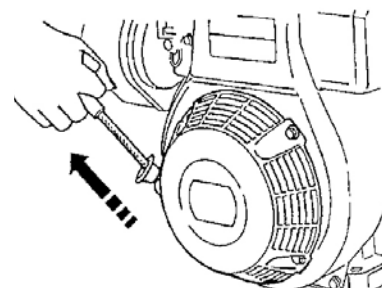
3. チョークレバーを閉じます。
チョークの開度は
 - ・寒い時やエンジンが冷えている時は全閉にします。
 - ・暖かい時や運転停止直後再始動する場合は全開もしくは半開にしてください。



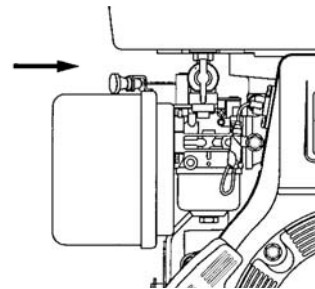
4. 本体のスロットルレバーを低速から高速の方向に1/3開いた位置にします。



5. 始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所(圧縮点)があります。更に少し引くと一度軽くなる所があり、そこから始動ノブを一旦元に戻し、勢いよく引張ります。
 - ・ロープは一杯に引ききらないでください。
 - ・引いた始動ノブは、その位置から手離さずしずかに元に戻してください。



6. エンジンが始動したらチョークレバーを開きます。
 - ・チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず全開にしてください。
 - ・寒い時またはエンジンが冷えている時、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止することがありますのでご注意ください。

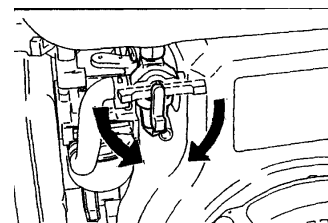


※エンジン始動と同時にブレードが回転しますので、ブレード周辺に充分気を付けてエンジン始動を行ってください。

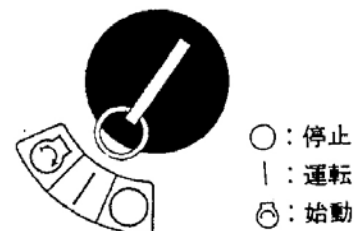
7. エンジン始動直後、負荷をかけずに3～5分位、低速側で運転（暖気）します。

2-2. エンジンの始動（セル始動）（MCP-180Eの場合）

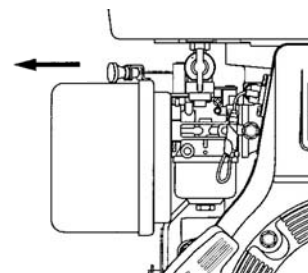
1. 燃料コックを開きます。



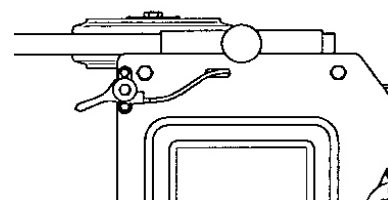
2. キーをキースイッチに差し込み運転“|”の位置にします。



3. チョークレバーを閉じます。
 チョークの開度は
 - ・寒い時やエンジンが冷えている時は全閉にします。
 - ・暖かい時や運転停止直後再始動する場合は全開もしくは半開にしてください。



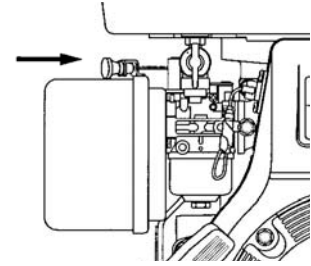
4. 本体のスロットルレバーを低速から高速の方向に1/3開いた位置にします。



5. キースイッチを運転の位置より更に右へ回す（始動位置）とエンジンが始動します。

6. 始動したらすぐにキースイッチから手を離します。
 注：始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。
 キーを運転位置に戻し、10秒位休んでから再始動してください。

7. エンジンが始動したらチョークレバーを開きます。
 - ・チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず全開にしてください。
 - ・寒い時またはエンジンが冷えている時、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止することがありますのでご注意ください。



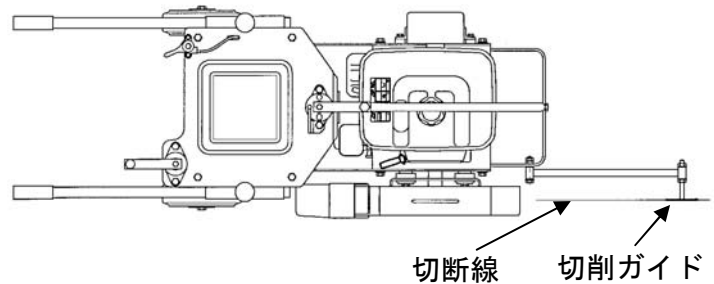
⚠ 危険

※エンジン始動と同時にブレードが回転しますので、ブレード周辺に充分気を付けてエンジン始動を行ってください。

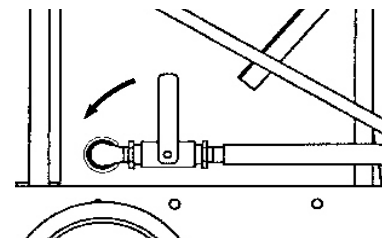
8. エンジン始動直後、負荷をかけずに3～5分位、低速側で運転（暖気）します。

2-3. 本機の運転

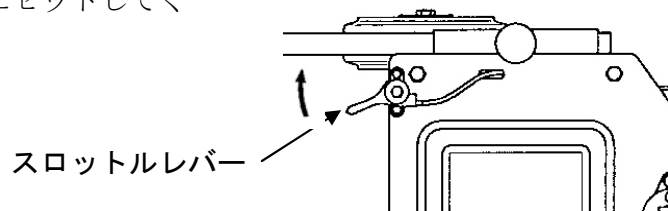
1. 切削ガイドを切断線に合せます。



2. 散水コックを開きます。（レバーを水平向きにします。）

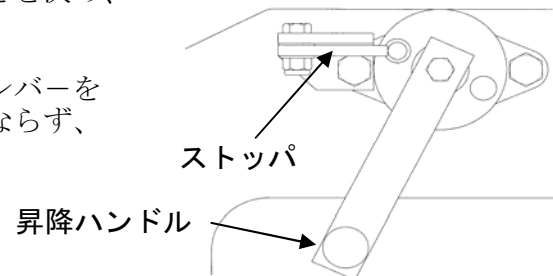


3. スロットルレバーを高速側いっぱいセットしてください。



4. 昇降ハンドルを右（時計方向）に回し切断深さを決め、ストッパでロックします。

※作業を中断するときはその都度スロットルレバーを低速側に戻してください。燃料の節約のみならず、エンジンの寿命にも好影響を与えます。



5. エンジン音を聞きながらゆっくりと機体を押し切削してください。

⚠ 危険

急激な切込み、切削はブレードの破損やエンジン、Vベルト等の耐久性を損なう恐れがあります。

⚠ 危険

- ・回転中のブレードには絶対に触れないでください。非常に危険です。
- ・溝きり以外の作業には使用しないでください。
- ・作業中は機械の周囲に人を近づけないでください。
- ・悪天候での作業は事故を招きますので、作業をしないでください。
- ・作業途中でブレードの冷却水を切らさないでください。異常加熱でブレードが破損し非常に危険です。
- ・作業途中で異常な音、振動が生じたときは直ちに作業を中止してください。
- ・エンジンのマフラーは熱くなりますので手など触れないでください。やけどすることがあります。

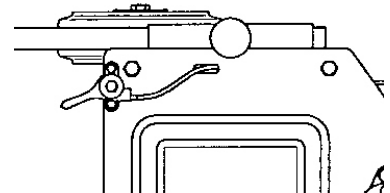
⚠ 警告

- ・ジグザグ切り、曲線切り、コジリ、側面切りは絶対にしないでください。
- ・極端に凸凹のある路面や急斜面での作業はしないでください。

3. 停止

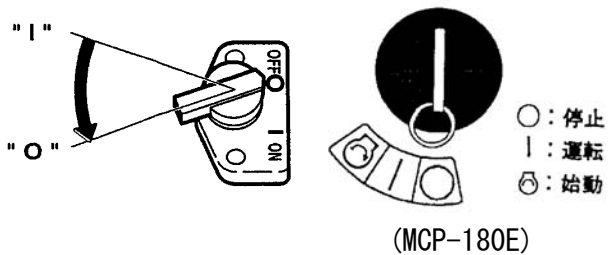
3-1. 本機、エンジンの停止

1. スロットルレバーを低速側にし、3～5分位運転します。



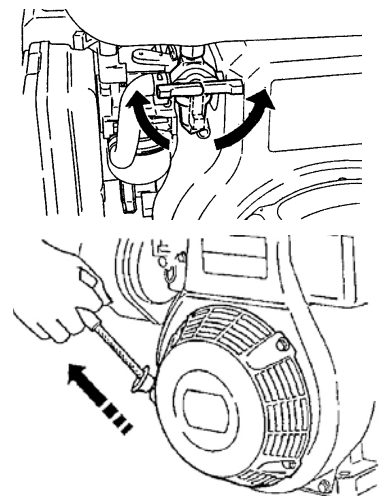
2. エンジンのストップスイッチを“○”
(OFF)の位置にします。

キースイッチを“○”の位置にします。
(MCP-180E)



3. 燃料コックを閉じます。

4. リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引き、重くな
った所で始動ノブを戻してください。
エンジン内部への外気(湿気)の浸入が防止できます。



注. 長期間使用しない時は、燃料コックを閉にしてエンジンが自然に停止するのを待ちます。気化器内に残った燃料を使い切ることで、変質やつまり等を防止します。

運搬と保管



1. 作業中の保管

- ・作業中に本機を一時的に保管するときは、エンジンを停止し平坦な路面を選んで固定してください。
- ・作業直後、カバーはかけないでください。エンジンが熱くなっており、火災事故を起こすことがあります。カバーをかける場合は、十分にエンジンが冷えてから行ってください。

2. 積込み、積降しの注意

- ・本機を吊り上げる際は、吊りフック、ハンドル等の損傷がないか、取付けネジの緩み、脱落がないかを必ず確認してください。
- ・本機の積込み積降しをするときは、吊りフックを使ってクレーン等で行ってください。
クレーンでの積込み積降しの場合は、クレーンの運転資格と玉掛け技能資格の両資格のある方に限ります。
- ・やむを得ず手作業で積込み積降しをするときは、身体にぶつかったり、足の上に落としたり、ハンドルと本機の隙間に手を挟まれたりしない様に、十分注意して行ってください。
- ・作業直後の積込みはしないでください。エンジンが熱くなっており、可燃物などに触れると火災事故を起こすことがあります。また手作業での積込みの場合は、エンジンに触れやけどをする危険があります。

3. 運搬、輸送時の注意

- ・運搬時は必ずエンジンを停止させてください。
- ・エンジン、本機がよく冷えてから運搬してください。
- ・運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- ・本機が水平な場所に置いた姿勢で運搬してください。
- ・本機が動いたり、倒れたりしないようにしっかり固定してください。

4. 格納

- ・水平な場所に置いた姿勢で、走行クラッチレバーを入れ、エンジンや機体が冷えてから格納してください。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクや気化器の燃料をきれいに抜き、直射日光のあたらない、湿気やホコリの少ない所に、エンジンや機体が冷えてからカバーをかけて保管してください。

本機及びエンジンの保守、点検



※エンジン運転中に点検をしないでください。大変危険です。
 ※点検は必ず安定した水平な場所に置き、エンジンが冷えた状態で行ってください。

作業前の点検

点検箇所	点検項目	点検時期
外観	傷、ゆがみ、変形	作業前
ボルト、ナット類	緩み、脱落	
ハンドル、吊りフック	傷、変形、亀裂、破損	
Vベルト	傷、変形、亀裂、破損	
燃料タンク	漏れ、傷、変形	
キャブレタ	漏れ	
エアクリーナ	汚れ、傷、変形	
エンジンオイル	漏れ、汚れ、油量	

定期点検

点検箇所	点検項目	点検時期
エンジンオイル	交換	50時間毎 (初回のみ20時間)
エアクリーナ	清掃	50時間毎
点火プラグ	清掃、隙間調整	50時間毎
燃料ストレーナ	清掃	200時間毎
Vベルト	傷、変形、亀裂、破損	100時間毎

※エンジンの点検、整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照ください。

ボルト、ナット等の点検

- ・ゆるんだボルト、ナット等は増締めしてください。
- ・破損部品、欠品部品は交換補充してください。

Vベルトの点検

- ・ベルトカバーを外しベルトの張り具合や、亀裂、磨耗がないか点検し、損傷があれば新品のベルトに交換してください。
 - ・ベルトの張り具合はプーリ間の中心を強く指で押して4~5mm位たわむように張ってあれば正常です。張りが不足している場合は、張り直してください。
 - ・ベルトの交換の際は、全て同時に交換してください。
- ※ベルトサイズは、仕様の仕様書欄に記載されております。

ブレード、カバー及び取付けの点検

- ・ブレードに曲がり、ひび割れ、欠け傷、異常変形等が無い点検してください。
- ・ブレードを取付けるシャフト、フランジ、締付ナットに異常が無い点検してください。
- ・ブレードカバーが異常なく正しく取付けられているか、点検してください。
- ・ブレード冷却用パイプを点検し、水の出が悪いときは清掃してください。

グリスの補給

- ・ブレード軸受けを点検し、グリスを補給してください。
- ・切込み深さ調整ネジ棒 (リフトスクリュウ) 部にグリスを補給してください。

バッテリーの点検

- ・バッテリーの点検については、付属のバッテリー取扱説明書を参照ください。

こんな時は（トラブルシューティング）

エンジンの始動不良

燃料があり点火プラグが発火しない	高圧コードまで電気がきている	点火プラグの間隙の不適正 点火プラグのカーボンによる汚れ 点火プラグの絶縁不良
	高圧コードまで電気がこない	停止ボタンスイッチの短絡 イグニッションコイルの絶縁不良、断線 イグニッションコイルとフライホイールのエアギャップ不良
燃料があり点火プラグが発火する	圧縮が良い場合	マフラのカーボンによる閉塞 不良燃料の使用 エアクリーナのかぶり 燃料に水またはゴミの混入
	圧縮が悪い場合	シリンダガスケットの不良または締付不良 ピストンリングの膠着 シリンダの磨耗 点火プラグの締付不良 バルブシートの荒れ
キャブレタに燃料がこない場合	燃料タンク内に燃料がない 燃料コックの開き不良 燃料フィルタのつまり 燃料タンクキャップ空気穴の塞がり 燃料パイプ中の空気たまり	

エンジンの運転不調

力が弱い	圧縮が良く失火もない	エアクリーナの汚れ 燃料パイプ中の空気たまり キャブレタのフロートレベルの狂い シリンダ内のカーボンのたまり
	圧縮不足	圧縮が悪い場合を参照
	圧縮が良く失火がある	イグニッションコイルの絶縁不良、断線 点火プラグのカーボンによる汚れ イグニッションコイルが時折、短絡する
エンジンの過熱	燃焼室内にカーボン堆積過多 マフラのカーボンによる閉塞 点火プラグの熱価不良	
マフラから煙が出る	黒煙が出る	チョークレバーの戻し忘れ チャンバのニードル磨耗
	青い煙が出る	オイル量過多 ピストンリングの磨耗
	白い煙が出る	ガソリンに水分が含まれている エアクリーナが水で濡れている
回転変動	ガバナ調整不良 ガバナスプリング不良 燃料の流通不良 吸入管系統からの空気の吸い込み	

本機の不調

切断不調	Vベルトの張り不足、損傷	張り調整、交換
	ブーリー及びブレードを点検	交換
	ブレード軸の取付け、変形を点検	調整、交換
	ブレードの回転方向間違い	ブレードの組付け直し
昇降がスムーズでない	ベアリングユニットを点検	交換
	昇降ネジ部の変形、グリス切れ ピロブロックを点検	交換又はグリス給油 交換



株式会社 明和製作所

東京営業所	〒334-0063	川口市東本郷 5	TEL(048)284-8883	FAX(048)282-0234
大阪営業所	〒536-0021	大阪市城東区諏訪 3-2-20	TEL(06)6961-0747	FAX(06)6961-9303
名古屋営業所	〒454-0869	名古屋市中川区荒子 1-32	TEL(052)361-5285	FAX(052)361-5257
福岡営業所	〒812-0006	福岡市博多区上牟田 2-9-25	TEL(092)411-0878	FAX(092)471-6098
仙台営業所	〒984-0042	仙台市若林区大和町 4-23-10	TEL(022)236-0235	FAX(022)236-0237
川口工場	〒334-0063	川口市東本郷 5	TEL(048)283-1611	FAX(048)282-0234
部品センター	〒334-0063	川口市東本郷 5	TEL(048)280-5555	FAX(048)280-0330

<http://www.meiwa-ltd.co.jp>